

令和元年度第1回向日市障害者計画策定委員会 会議録

- 1 日 時 令和元年8月21日（水）午後1時30分から午後3時15分まで
- 2 場 所 向日市福祉会館 3階 大会議室
- 3 出席者 (委員) 15名
拾井委員（委員長）、堀委員（副委員長）、梅山委員、山本委員
因幡委員、久保川委員、稲葉委員、井上委員（乙訓ひまわり園）
栗森委員、植田委員、宮川委員、井上委員（乙訓保健所）
吉田委員、能塚委員、三宅委員
(事務局) 6名
水上市民サービス部長、川本副部長
長谷川課長、岩谷係長、山中係長、松本主任
(傍聴者) なし
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 委員長、副委員長の選出（委員長：拾井委員、副委員長：堀委員）
 - (3) 議事
 - ア 第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児福祉計画策定 のためのアンケートについて
 - イ その他

【概要】

(1) 開会

(2) 委員長、副委員長の選出

委員からの承認を得て、前期から引き続き、委員長として拾井委員を、副委員長として堀委員を選任した。

(3) 議事

第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児福祉計画策定のためのアンケートについて

事務局から第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児福祉計画策定のためのアンケート調査について、実施概要及び前回アンケート調査との変更点等の説明を行った。

<意見の要旨>

委員：前回アンケートで実施している「今後どのように働きたいか」という質問について、「働きたくない」「不明・無回答」の回答割合が高かったとのことだが、選択肢ごとの回答割合について教えてもらいたい。

事務局：正規社員 10.4%、非正規社員 6.4%、自営業 4.3%、内職 3.4%、福祉的就労 8.2%、働きたくない 22.9%、その他 13.9%、不明・無回答 30.5%となっている。

委員：介助者である家族の高齢化が課題となりつつある。障がい者を支える家族の協力関係、健康状態、暮らし方などについて、把握できるような質問を設けてもらいたい。

事務局：家族の高齢化に伴う今後の不安については、よくご意見をうかがう。アンケート調査やヒアリングなどなんらかの方法で改めて意見をうかがい、計画等に活かしていけるように努めたい。

委員：今回アンケート（案）の質問項目としてある「障がいのある人のための防災手帳」の配布対象はどうなっているか。

事務局：災害時に避難所等での支援を受けやすくするためのツールとして作成し、障がいのある方を対象に配布している。団体の方や窓口でお配りしているところだが、実際の認知度を把握するために質問を設けた。

委員長：質問として設けることで周知の効果もあると思う。

委員：今回アンケート（案）の質問の中で「仕事をしない理由はなにか」というものがあるが、就労こそしていないものの、サービスの中で就労に近い形で作業をしている障がい者もいる。

本人たちにとってはそれが「仕事」であり、質問の聞き方によっては、それを否定され、ショックを受けるのではないか。

- 事務局：質問の聞き方について、十分に配慮したい。
- 委員：今回アンケート（案）の質問の中で「日常生活上の課題」という表現があるが、「課題」という言葉はイメージがつきにくく、「日常生活上の不安」「困りごと」という表現の方が回答しやすいのではないか。
- 事務局：対応したい。
- 委員：今回アンケート（案）の質問の中で「災害時に一人で避難できるか」という質問があるが、「誰と避難するか」「避難所にどのような機能が必要か」など実際の避難所運営の参考となるような聞き方をしても良いのではないか。
- 委員長：「自宅で災害にあった場合」など質問に状況設定を付した方が良い。
- 事務局：避難行動要支援者の避難所への移動方法、避難所での過ごし方は市としても大きな課題となっており、アンケートを通じて状況を把握できれば、今後の防災施策の参考とすることもできる。
積極的に取り入れていきたい。
- 事務局：事業所から見た現在の向日市及び乙訓圏域の課題について、事業所からの意見をうかがいたい。
- 委員：事業所によって計画に対する意識や認識が大きく異なる。
相談支援事業所であればある程度、丁寧に答えることが可能だと思われる。
- 委員：乙訓圏域で児童発達支援センターが不足している。
誕生から保育所、幼稚園など就学に至るまでに様々な苦労がある。
もっと細やかな情報発信があれば良い。